

# キャンピング KYOTO

編集・発行 京都府キャンプ協会

〒604-8083 京都市中京区三条通柳馬場東入中之町2 京都YMCA三条本館内

TEL: 075-255-4709 FAX: 075-255-2087

E-mail: kyoto@camping.or.jp URL http://kyoto.camping.or.jp

2021/10

Vol. 73

## 2021総会報告

### 『2021年度京都府キャンプ協会 総会』

2021年度京都府キャンプ協会総会は6月27日(日)13時から京都YMCA三条本館にて開催しました。正会員12名の出席、委任状23名で成立し、すべての議案及び報告は承認されました。

#### 第1号議案 2020年度事業報告

##### I. 会員数196名(2021年6月6日現在)

- A キャンプ・インストラクター資格 117名
- B キャンプ・ディレクター2級資格 45名
- C キャンプ・ディレクター1級資格 34名

##### II. 指導者資格認定事業 未実施

##### III. 指導者養成事業

##### ①日程: 11月28~29日

※事前履修(動画配信)+1泊2日の対面開催

会場: 京都府立ゼミナールハウス、京都市京北森林公園

講師: 神崎会長・遠藤理事・濱野理事・船越委員

森下委員、宮西委員、竹川委員

参加者: 6名

##### ②日程: 2021年3月16日・17~19日

会場: 青少年野外活動センター友愛の丘

講師: 濱野理事・船越委員

参加者: 3名

##### IV. 主催事業(月例会)、受託事業(月例会兼)、その他

この夏どうしてました?「コロナ対策ミーティング」

日程: 12月3日 ※オンライン開催

参加: 10団体、20名

新型コロナウイルス感染症への対策をとりながらキャンプ事業を実施した京都府下の野外関係団体同士の情報交換を行った。

##### V. 会議

理事会: 2020年8月 書面決議

総会: 2020年9月5日 13時~

京都YMCA三条本館

常任理事会: 2020年9月18日、10月16日、

2021年3月5日

##### VI. 運営委員会

2020年4月17日、6月23日、10月2日、

10月28日、12月11日、

2021年2月1日、3月19日

午後7時~9時 計7回

京都YMCA三条本館及びオンライン

次ページへつづく



10月例会

## たき火であそぼう!

たき火の準備から着火、炎の調節、後片付けまでを体験を通して楽しみながら学びましょう!

日程 2021年10月30日(土) 14:00~19:00

場所 ①NPO法人森守協力隊前の広場(京都市右京区京北下弓削杉森26-1)

②青少年野外活動総合センター友愛の丘(城陽市寺田南中芝80)

対象 内容に興味関心のある18歳以上の方(18歳以上の方の同伴があればお子様の参加も可)

参加費 1,500円/1名(同伴のお子様600円/1名)

定員 各会場10名程度(最少催行人数各5名)

持ち物 汚れてもよい服装、軍手、飲み物

雨天 雨天中止(中止の際は、開催当日正午までに判断し連絡いたします。)

申込み 右記QRコード専用フォームからお申込みください。

申込み切 2021年10月27日(水)



2020年11月28日29日一泊二日参加者6名、スタッフ6名で開催されました。

それに先立ち、参加者は、京都教育大学・遠藤浩先生の「キャンプの特性」「キャンプの対象」の視聴課題を受け当日を迎えました。28日は、あうる京北においてコロナ対策を行いながら、集中して座学理論を、29日は、場所を京北森林公園に移してクラフトなどの実技や野外炊事のピザづくりを行い、楽しいながらも有意義な時を過ごしました。

その後、全員が認定考査を受け、好成績で合格、日本キャンプ協会に入会手続きを行い、新しい仲間が6名増えました。

報告 宮西恵津子



## 京都YMCA

京都府キャンプ協会

### 関係団体からのお知らせ

トンビが大空高く飛びまわり、アマガエルがそこかしこに佇み、時には朝早くにカブトムシが現れ、夕方にはトンボが飛び交う、、、そんな自然環境に恵まれた京都YMCA サバエ教育キャンプ場(以下、サバエ)は、1948年に近江八幡市佐波江町の浜辺に開設されました。当時は湖岸道路もなく、まさに湖畔、白砂青松のキャンプ場でした。かつては建物も何もなかった平地のキャンプ場が、73年の時を経て、宿泊キャビン9棟、食堂兼メインホール、トイレ2棟、シャワー棟2棟の立派なキャンプ場となりました。毎年夏、多くの子どもたちがキャンプ場を訪れ、たくましく成長し帰っていく。そして、子どもたちに関わるリーダーはそこに来る子どもたちのために夏休みの間の多くの時間を割いて活動し、彼らもまたここで大きな成長を遂げるのです。京都府キャンプ協会でも、一昨年前に8月例会として利用されましたので、ご存知の方もいらっしゃるかと思います。

そのサバエでの活動が今シーズンで幕を閉じました。サバエは言うまでもなく京都YMCAにとって青少年を育てる場であり、そこに集う子どもたちの貴重な自然体験の場でありました。これはYMCA活動の使命でもあります。そしてその使命実現のために、多くの社会人ボランティアがサバエを陰で支え続けてきてくださいました。病気の子どもたちのキャンプの場としても、サバエはその使命を果たしてきました。

サバエを閉じた後もキャンプは続けていきます。当面は宇治にあるリトリートセンター、近隣YMCAやその他の既存のキャンプ場が活動先となります。そして、持続可能な新たなキャンプ事業のスタイルを構築し、今度こそ100年続くキャンプ場を開設したいと思います。「キャンプは現実世界の縮図」と表現されます。そこに集う子どもたちの多様性、関わるリーダーもまた多様な人の集まりです。そんな多様な人々が、キャンプの目標達成のために民主的な交わりを通して取り組む。これはまさに私たちが住む世界そのものです。また、ようやく浸透してきたSDGsが伝えているように、世界は今、自然との付き合い方、向き合い方を問い直さなければならない時を迎えています。そのように考えた時、私たちが目指すキャンプ場のスタイルとは、自立型キャンプ場ではないかと思うのです。

使用する電気は自分たちで作成、生活排水はろ過して出来るだけ自然に近い形で戻す。火を使うための薪も、計画的に風や光りを通すための必要な間伐を通して作り出す。そんな地球環境への配慮がなされたキャンプ場での生活を通して、子どもたちがこれらのことを学ぶ。そんな子どもたちが増えていけば、彼らが大人になった時に、社会は何らかの変化をもたらす。

今、そんな持続可能なキャンプ場開設を目標に、土地探しから始めています。70年前に先達が探し求めてようやく見つけたサバエの地です。そう簡単に新たな場所が見つかるものではないと認識しています。ですから、サバエ73年間の経験を思いながら、けして諦めることなく、思いを持って探し続けていきたいと思っています。このようにして私たちYMCAは、常に未来に向けて歩み続けていくのです。

京都YMCA サバエキャンプ長 中村彰利



2020年12月3日19時より、京都府キャンプ協会としては初めて、京都府内で活動する野外活動団体、グループに声をかけて、コロナ対策の情報交換会を行ないました。

この会議では、子どもを主対象とした野外活動を中心に展開する団体の、コロナ対策の現状を情報交換するとともに、個別の活動について対策の工夫や取組みを共有し、各団体の今後の活動に生かすことを目的として開催しました。オンライン会議の形をとり、10団体にご参加いただきました。

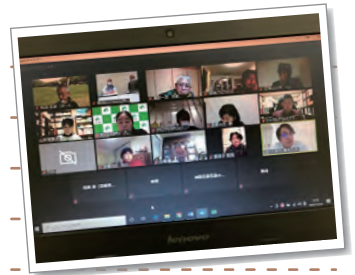
コロナウイルス感染症の対策は、それぞれの団体においても手探りの状態での取り組みだったと思います。最近では、何をやればいいのかはある程度わかってきたものの、どこまでやればいいのか、何が効果的なのかなど、いまだにわからないことも多くあります。そのような中でこういった情報交換会ができたことは、各団体にとっても有意義であったと思われます。特に今回、小児科の医師である奥村先生にご参加いただき、専門的な見地からアドバイスいただけたのが大変良かったと思います。具体的には会話で発する飛沫が感染の元凶であること。ガヤガヤしゃべったり歌を歌ったりするのが感染リスクが高いこと。そういうプログラムを極力減らすようにすること。コロナウイルスは、アルコール、石けんに弱いことなどのアドバイスがありました。

今後の状況次第ではありますが、新たな対策について情報交換のできる機会ができれば良いのではないかと考えています。

オンライン会議としては、2時間があっという間で、相互に意見交換をするなどの時間や手だてがとれなかったことなどが反省点です。

また本協会は基本的に指導者個人のネットワークであり、野外活動団体を網羅していません。草の根で活動している野外活動団体はいくつもあり、そのネットワークは築かれていないのが現状です。本協会が橋渡しになれる仕組みがあればいいのではと思っています。

濱野一彦



### 参加対象

京都府内におよその活動の中心があり、子どもを主対象とした野外活動を中心に展開する団体、および類似する団体所属の方、または内容に興味があり、zoomでのオンライン参加ができる方。なお京都府キャンプ協会会員、非会員を問わない、としました。

### 参加団体（発表順）10団体

京都YMCA  
遊びの学校運営委員会「遊び研究会」  
ガールスカウト京都府連盟  
CLUB ATTRACTION  
青少年野外活動総合センター友愛の丘  
トータルアウトドアプランニング  
花背山の家  
ボーイスカウト城陽第1団  
森守協力隊  
青少年野外活動総合センター城陽五里五里の丘

- ③会員交流、貴重な野外活動体験につながる例会
- ④企画への助成事業の検討
- ⑤賛助会員、団体会員候補者・団体へ入会の呼びかけ
- ⑥キャンプに関する事業の定期的実施（月例会の実施）
- ⑦日本キャンプ協会、地域協会、関係団体との協力・連携
- ⑧事務局機能の再構築

### 3. 日本キャンプ協会、地域協会をはじめ関係団体との協力・連携

- ①日本キャンプ協会事業およびブロック会議へ積極的に参加・参画
- ②「関西野外活動ミーティング2022」への協力（3月）
- ③SNSを利用した広報活動の強化
- ④花背山の家で行われている「自然体験活動」に参加・協力（10月30日）
- ⑤京都府民総合体育大会への出展協力（10月31日）

### 第5号報告 2021年度委員委嘱報告

協会規約第17条により理事会は次の会員を委員として委嘱しました。敬称略順不同

#### 運営委員会

遠藤 浩	森下 克徳	濱野 一彦
竹川 尚美	宮西恵津子	中村 彰利

#### 組織活性化検討委員会

神崎 清一	濱野 一彦	塚原 誠一
吉村 元宏	竹川 尚美	遠藤 浩
小嶋 薫	中村 彰利	

#### 広報委員会

小嶋 薫	神崎 清一	森下 克徳
中村 彰利		



## VII. 協会設立40周年+1周年記念企画委員会、広報委員会

2020年10月26日、2021年1月26日  
上記以外にも、メールを通じて協議を重ねた。

## VIII. 協力事業 なし

## IX. 事務局事業

1. ホームページの更新
2. 京都府キャンプ協会 会員アンケートの実施  
実施期間：11～12月  
案内数：207件 回答数：9件  
アンケート結果

## X. 団体登録

1. (公社)日本キャンプ協会
2. 京都青少年ゆめネットワーク「ゆめっと京都」
3. 京都府青少年育成協会
4. 京都はぐくみネットワーク
5. 京都市教育委員会「花背山の家」運営委員会委員
6. (公財)京都市生涯学習振興財団

## XI. 日本キャンプ協会

1. 第24回日本キャンプミーティング  
6月6日 神崎会長
2. 近畿ブロック会議  
12月9日 神崎会長、遠藤副会長、中村理事

## 第2号議案 2020年度決算

## 第4号議案 2021年度予算

京都府キャンプ協会2020年度決算及び2021年度予算案は満場一致で承認されました。

## 収入の部

科目	20決算	21予算	摘要
1 会費	315,000	350,000	登録費を含む
2 寄付金	0	0	
3 事業収入	139,800	150,000	講習会・月例会・他
4 雑収入	11	100	預金利息
5 補助金	0	0	
当期収入合計	454,811	500,100	
繰越金	1,581,852	1,540,179	
合計	2,036,663	2,040,279	

## 支出の部

科目	20決算	21予算	摘要
1 会議費	19,080	30,000	総会・日本協会総会・近畿ブロック他
2 旅費交通費	8,740	20,000	日本協会関連会議・近畿ブロック関連他
3 事業費	91,187	170,000	講習会・月例会・BUC他
4 事務費	70,541	230,000	郵送費・オンライン用品、pc他
5 雑費	106,936	50,000	
6 会員交流費	0	100,000	
7 積立金	200,000	200,000	
当期支出合計	496,484	800,000	
予備費	0	1,240,279	
収支差額	1,540,179	0	
合計	2,036,663	2,040,279	

## 監査報告

2020年度事業及び会計について、監査の結果適正かつ正確なることを証明いたします。

2021年6月7日 監事 柳沢 傳 監事 藤尾 実

## 第3号議案 2021年度事業計画

私たち京都府キャンプ協会は、設立以来41年にわたり、府下のキャンプ事業に関わる団体や行政機関、ならびにキャンプ事業に携わる指導者の皆さんとともに、キャンプの発展と指導者の養成と結集を願って、会員の方々によって運営されてきました。

私たちは今、SDGsの目標でもある、生き方や価値観、安全に対する考え方、共に生きることの喜びや重要性について考えることが必要とされ、一人ひとりのいのちの重さや尊厳の課題について真摯に向き合うこと、人の多様性を受け入れることなどが求められています。さらには自然環境とエネルギーの問題についても、同様に新しい解決策が求められています。

これらの諸課題に対して取り組むと共に、次代を担う子どもたちや青少年が自ら考え、新しい価値観を創り出す手段として、体験学習として代表的なものである「キャンプ」「自然体験活動」に、大きな期待が寄せられています。また各地で起こる自然災害、そして今なお深刻な課題であるコロナウイルス感染症(COVID-19)による禍から、新たな生き方や生活習慣が求められ、価値観の変容にもせまられています。

私たちは、その期待に応えるべく、キャンプのもつ教育的価値を再検証し、期待される指導者、指導法について見直しも求められ、地域や団体や機関との連携や協力、私たちが計画・実施しているキャンプのあり方、指導者の養成、キャンプの様々な報告や発信についても同様に変化が求められています。

私たちが、大切にしてきたキャンプをあらためて見つめなおし、新たに育み、社会に発信することが、必要ではないでしょうか。

日本キャンプ協会においても「ビジョン2025」として、  
1)指導者養成制度を活用した「キャンプの案内人」養成：  
キャンプインストラクター養成の多角化・愛好者の拡大等  
2)新しいキャンプの創造：  
多世代応援多チャンネル連携/社会的課題対応等  
3)都道府県協会と日本協会の自立を図る：  
オンライン・デジタルの推進/地域・ブロック連携の強化等  
取り組みについて計画がされています。

京都府キャンプ協会の現状を踏まえ、次の時代に向けて、京都版ビジョン2025を構築するために、広く会員に協力者を求めつつ、様々な分野や団体の方々との連携を強化することで、新たな人財や活動の展開をはかることを計画し実施いたします。

そのためにも、団体会員や賛助会員(仮称)の制度を検討します。

さらに、広報誌やホームページを始めとした広報の強化をはかっていくものとします。

## 1. キャンプの普及活動として、以下の事業に取り組みます

- ①広報  
協会の公式ウェブサイトの運営  
キャンピング京都(会報誌)を年3回発行  
外部委託も検討し発行  
→広報委員会を中心に計画、実施する。

- ②普及事業  
花背山の家主催事業、京都府民総体(10月)などへの協力他

- ③キャンプ愛好者や会員が集えるプログラムの企画実施

## 2. 協会運営および事業への参画者の拡充と指導者の資質向上、協会の基盤強化

- ①委員会および普及事業への参画者拡充
- ②指導者の資質向上、強化